

資料編

令和 6 年度ふるさとフォーラム 中学生提言(要旨)

総合計画では、令和 6 年度ふるさとフォーラムにおける中学生提言を踏まえ、重点プロジェクトの取組に反映した。

については、計画に反映した提言の主な内容は以下のとおりである。

(注 1) 本文中では、提言の趣旨を踏まえた取組に [中学生提言] のタグを付している。

(注 2) 本資料は要旨に加え、発言内容等をもとに整理した全文を掲載する。

1. 産業・仕事(一次産業等)

- ・ 持続可能な漁業の実践
- ・ 水産業活性化に向けた魅力発信とコスト削減
- ・ 水産業活性化に向けた協力体制の構築
- ・ 農林業の担い手育成と活性化に向けた「学ぶこと」「体験すること」の機会創出
- ・ 農林業の担い手育成と活性化に向けた SNS を活用した魅力発信
- ・ 農林業の担い手育成と活性化に向けた他分野との連携
- ・ 企業誘致や新たな事業の立ち上げ、若い世代の移住などに対する町の積極的な支援

2. 防災・生活基盤

- ・ 防災意識の向上と安全な避難環境の整備(避難経路の整備等)
- ・ 防災意識の向上や防災リスクの低減のための空き家の活用

3. 子育て・人口・地域活性化

- ・ 人口増加と地域活性化に向けた雇用と消費の創出(食材等を活かした魅力の創出、多様な人材が南伊勢町で活躍できる機会の提供)
- ・ 企業誘致や新たな事業の立ち上げ、若い世代の移住などに対する町の積極的な支援

4. 福祉・地域の支え合い

- ・ 福祉の充実と誰もが安心できる町に向けた周知宣伝の強化
- ・ 福祉の働き手確保
- ・ バリアフリー化や道路の拡張など誰もが安心安全に利用できる道路環境の整備(災害時の避難の観点を含む)

5. コミュニティ・自然

- ・ まつりやイベントの積極的な開催によるコミュニティの強化
- ・ 様々な取組を進める前提としての自然との共存

令和6年度中学生より南伊勢町への提言

資料編へ掲載した本提言は、令和6年度ふるさとフォーラム発表における発言内容及び発表スライドより、まちづくり推進課において提言内容として要約し、学校の確認のもと整理したものである。

令和6年度ふるさとフォーラム 中学生提言（全文：発表内容をもとにまちづくり推進課において整理）

提言における求める町の姿

- 「住み続けたいと思える町」
- 「もう一度活性化させられるまち」
- 「活気に満ち溢れた南伊勢町」

各分野からの個別提言

1. 水産業の活性化に向けた提言

課題として捉えたこと：南伊勢町の基幹産業である水産業は、漁師の減少、生産コストの増大、漁獲量の減少といった深刻な課題に直面しています。さらに、高齢化、環境問題（黒潮の大蛇行）といった複合的な要因も影響しています。

提言とそこに至る思い：私たちは、「自然に寄り添う漁業」「興味を持ってもらえる漁業」を推進し、「漁業を未来へとつなげていく」ことに強い思いを抱いています。このため、以下の具体的な対策を提言します。

主な取り組み

持続可能な漁業の実践：

- ・ 自然のサイクルに合わせて漁獲方法を変えたり、養殖を取り入れたりすることで、漁獲量の安定化と資源保護を図ります。これは、単に魚を獲るだけでなく、「魚を保護する」という意識を持って、豊かな海を守っていきたいというのが私たちの願いだからです。

魅力発信とコスト削減：

- ・ SNSなどを活用し、南伊勢町の魚や漁業の魅力を積極的に発信することで、消費拡大や新規就業者への興味喚起を促します。
- ・ コスト削減策を検討し、漁業従事者の経済的負担を軽減します。
- ・ 講演会などを通じて、南伊勢町の持つ海の魅力を伝え、「視野を広げ、豊かな漁業を行う」ことの重要性を啓発します。

協力的体制の構築：

- ・ 漁業関係者間の協力を強化し、漁業に興味を持つ人が増えるような環境を整えます。これにより、活気ある漁業コミュニティを築き、「活気に満ち溢れた南伊勢町」を実現したいと考えています。

2. 農林業の担い手育成と活性化に向けた提言

課題として捉えたこと：農林業分野では、少子高齢化、獣害、次世代に繋がる担い手不足が深刻であり、特に若い世代が農林業に興味を持ってないことが大きな課題となっています。

提言とそこに至る思い：私たちは、南伊勢町を「もう一度活性化させられるまち」にしたいという強い思いから、農林業への関心を高め、担い手を育成するための提言を行います。

主な取り組み

「学ぶこと」「体験すること」の機会創出：

- ・ 木育、フィールドワーク、講演会、農林業体験、みかん狩りなど、多角的なアプローチを通じて、実際に農林業に触れる機会を増やし、子どもから大人までが関心を持てるようにします。これにより、農林業の魅力を肌で感じ、将来の選択肢として真剣に考えてもらえることを期待しているからです。

SNS を活用した魅力発信：

- ・ SNS を積極的に活用し、農林業の現状や魅力を県内外に広く発信することで、移住者の増加にも繋がりたいと考えています。南伊勢町の自然の中で働くことの豊かさを伝えることで、「仕事に繋がる担い手」を見つけ、増やしていきたいです。

他分野との連携：

- ・ 農林業だけでなく、他の分野とも深く話し合い、連携することを提案します。これは、農林業が町の様々な側面に影響を与える重要な要素であると認識していると考えているからです。

3. 防災意識の向上と安全な避難環境の整備に向けた提言

課題として捉えたこと： 防災面では、防災意識の低さ、避難訓練への参加回数の少なさが課題です。また、避難経路が険しく、高齢者や子どもが登りにくいといった課題。避難路やスロープの整備不足、夜間でも安全に避難できる設備の欠如、空き家が崩れるなど避難経路へのアプローチにおいて危険な箇所があるといった物理的な問題も存在します。

提言とそこに至る思い： 私たちは、「高齢者も含め、みんながすぐに避難できる町」にしたいという切実な思いを持っています。この思いから、以下の対策を提言します。

主な取り組み

避難経路の整備：

- ・ 道やスロープの整備・確保を進め、高齢者や子どもでも安全かつ迅速に避難できる経路の確保を提案します。
- ・ 夜間でも避難できるよう、発光する設備を導入し、視認性を高めます。これは、いざという時に誰もが迷わず、安心して避難できる環境を整えたいという願いからです。

防災意識の向上：

- ・ 防災スタンプラリーなど身近に防災を感じるイベントの実施を提案します。
- ・ 被災経験者など、実体験を持つ方々を招いて講演会を開催し、防災の重要性をよりリアルに伝えます。これにより、防災意識の低い層にも危機感を共有し、避難訓練への参加を促したいです。

空き家の活用：

- ・ 防災上のリスクを低減するとともに、地域の安全性を高めるためにも空き家の整備・活用を提案します。

4. 人口増加と地域活性化に向けた提言

課題として捉えたこと： 南伊勢町の人口減少の背景には、「働く場所が少ない」「お店が少ない」という二つの大きな課題があります。

提言とそこに至る思い： 私たちは、南伊勢町を「住み続けたいと思える町」にしたいという強い思いから、以下の提言を行います。

主な取り組み

雇用と消費の創出：

- ・ 飲食店を増やし、地元の食材を使った新たな魅力を創出することで、地域内外からの来訪者を増やし、消費を喚起します。
- ・ 企業を誘致するなどして働ける場所を増やし、若者やUターン・Iターン希望者が安心して暮らせる雇用環境を整備します。これにより、「働く場所がない」という悩みを解消し、多様な人材が南伊勢町で活躍できる機会を提供したいです。

コミュニティの強化：

- ・ 祭りやイベントを積極的に開催し、地域住民の交流を促進することで、「人の絆」を深めます。絆が深まることで、地域への愛着が育ち、長く住み続けたいという気持ちが生まれると考えています。

町による支援：

- ・ 企業誘致や新たな事業の立ち上げ、若い世代の移住などに対し、町が積極的に補助制度を検討・実施することで、地域経済の活性化を後押しします。

自然との共存：

- ・ これらの取り組みを進める上で、南伊勢町の「豊かな自然や良いところを残すことが大切」であると考えます。自然は南伊勢町の最大の魅力であり、これを守りながら発展していくべきだという思いがあるからです。

5. 福祉の充実と誰もが安心できる町に向けた提言

課題として捉えたこと：福祉分野では、福祉の働き手不足、高齢者や体の不自由な方の移動や災害時の避難に影響する道路の問題、そして様々な情報や取り組みの周知宣伝不足が課題として挙げられます。

提言とそこに至る思い：私たちは、南伊勢町を「誰もが楽しく交流し合い、安心安全に生活できる町」にしたいという強い願いを持っています。この思いから、以下の対策を提言します。

主な取り組み

周知宣伝の強化：

- ・ 多様な人々が交流できる場所を設け、ポスターなどを用いて町の様子や取り組みを積極的に伝えます。
- ・ SNS やアプリを活用した宣伝を推進し、若い世代にも情報を届けやすくします。
- ・ 高齢者が多いことを踏まえ、町内放送の活用も重要と考えます。これは、誰もが取り残されることなく、必要な情報にアクセスできるよう、きめ細やかな情報提供を目指すものです。

道路環境の改善：

- ・ 高齢者や体の不自由な方がスムーズに移動できるよう、バリアフリー化や道路の幅を広くしたり、街灯などの整備を進めたりすることで、誰もが安心安全に利用できる道路を整備してほしいと願っています。これは、「災害時の避難」の観点からも極めて重要と考えています。

福祉の働き手確保：

- ・ 企業や施設だけでなく、町自体が福祉関連の職員募集の周知や宣伝に努め、福祉分野で働く人材を確保してほしいと提言します。
- ・ 働いている人が増えるよう、収入の補助制度なども検討することで、福祉分野で働くことの魅力を高め、「働き手が少ない」という課題を解決したいと考えています。